



学校法人陸学園 理事長、兵庫大学 学長
 こうの まこと
 河野 真 さん

地域に無くてはならない大学に

今年100周年を迎える学校法人陸学園の理事長で、兵庫大学の学長でもある河野真さんに、今年度新設のされた教育学部のお話などを伺いました。

建学精神「和」を体現する人に

兵庫大学の建学精神は「和」。聖徳太子の「和を以て貴しとなす」から来ていますが、抽象的ともいえるこの言葉をどうすれば体現できるのか。それには学園訓である「感謝・寛容・互譲」を大切にすることにあります。生かされていることに感謝をすること、他者に心を寄せ相互に認め合い大切にしようこと、互いに譲り合い助け合うこと。兵庫大学はそういう心を育てる大学でありたいと思っています。本学の建学の精神は、SDGsの理念「誰一人取り残さない社会の実現」とも通底して

いると考えています。私も最近には教壇に立つことも少なくなりましたが、立った時は学生に「本学で学べば必ず、世界が求めている、社会をけん引する人材になれる」と言っていて、学生たちは目をキラキラ輝かせて聞いています。本学は真面目で優しい学生が多く、この人柄は教員や看護師、福祉士、保育士などヒューマンサービス業を指す学生にはとても大切なことです。「誰かのために」と自然に思える心をこれからも育てていきたいですね。

教育学部が新設されました

今年度、兵庫大学に本学が最も得意とする分野の教育学部が新設されました。現代の教育現場は、高度成長期から続いたマスプロ的教育ではなく、「個」の成長・特性を伸ばす教育が主流で、教員もそれらに対応できるよう求められています。当学部では、「最先端」「現場主義」に基づいたプログラムで子どもの側に寄り添える人材を育ててまいります。

まずは「最先端」。個々の状況を科学的に把握するシステムをオリジナルで開発しました。これは生徒たちの情報をデータ化し、そのデータの組み合わせで、どういった指導・体験をすれば個を伸ばせるのか、そのポイントを探すことができ、そこにデータでは解決できない経験からくる指導や熱意と

思いによって、さらに厚みのある指導が行えます。今後もデータを活用して生徒指導のスキルを高め、それぞれの個性を持った生徒に適した対応・判断ができる教員を養成していきます。

次に「現場主義」です。これは従前よりどの学部でも行っていることですが、学んだ基礎知識を実践し体現するために、実際の現場に赴き実習します。現場で経験を積まないと成長はできず、失敗を繰り返しながら実践力を高めてほしいと思っています。実体験を身に付け、臨機応変にどう対応できるのか、応用力・実践力を高める人材育成に力を入れています。

こうした学びには地域の学校や企業のご協力が必要で、できるだけ多くの機関に受け入れをお願いしたい。その際は厳しく、そして温かくご指導いただければと思います。大学では得ることのできない職場での貴重な体験は実践力を高め、さらに就職にも繋がると考えています。本学の学生は地元在住の学生も多いので、大学で身に付けた力を地域に還元してほしいですね。

地域との結びつきを大切に

これからも兵庫大学は地域との繋がりを益々深めて、地域に無くてはならない大学でありたいと強く思っています。今後ともよろしくお願いいたします。